

令和5年度 学生による地域フィールドワーク研究助成 中間報告書

大学等名：富山大学

代表学生：北島 陽貴

指導教員：藪谷 祐介

<p>研究題目 (応募部門)</p>	<p>コミュニティビルドを用いた空き家活用の実践とプラットフォームの構築：高岡市吉久を対象として</p>
<p>研究概要</p>	<p>人口減少や少子化・高齢化などを背景にした空き家の増加や地域コミュニティの衰退という地域課題を解決する手法として、西野らはCo-Renovation（以下、コ・リノベ）を提唱している。高岡市吉久でも同様の地域課題を有していることから、その改善策としてコ・リノベに着目した。昨年から取り組んできた地域内の町家の自主改修を地域に開いた活動（コ・リノベ）とすることで、空き家活用のプラットフォーム構築の足掛かりとし、参加者のまちづくり意識や自主改修意識の向上を目指す。本研究では、空き家活用を継続するための基盤形成に取り組むとともに、参加者を対象としたアンケート調査とヒアリング調査による効果検証を行う。</p>
<p>これまでの活動状況と 今後の活動予定 (300字程度)</p>	<p>まず、7月末にコ・リノベを行う部屋の網戸を制作する自主改修を行い、参加者を招くことのできる最低限の環境を整えた。続いて、コ・リノベとして8月末にベンチ・階段ワークショップ(図1・2)を、9月末に家具塗装ワークショップ(図3)を開催し、それぞれ約10名の参加者(地域住民・大学生)と活動し、自主改修体験と同時に地域に開いた活動を行う場づくりも進めることができた。なお、10月末に開催した内覧会(図4)では約100名が来場した。参加者を対象としたアンケート調査や活動中の会話から、自主改修活動の認知だけでなく、参加者の意識向上も確認できたことから、コ・リノベが他の町家や空き家に展開する可能性が考えられる。</p> <p>今後は、一部の参加者へのヒアリング調査を実施し、より詳しい質的な効果検証を行う。</p>
<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響で、当初予定と変更がある場合は変更点を記述ください。</p>	<p>特になし。</p>



図1 | コ・リノベで制作したベンチとベンチ制作の様子 (学生と地域住民が協働)

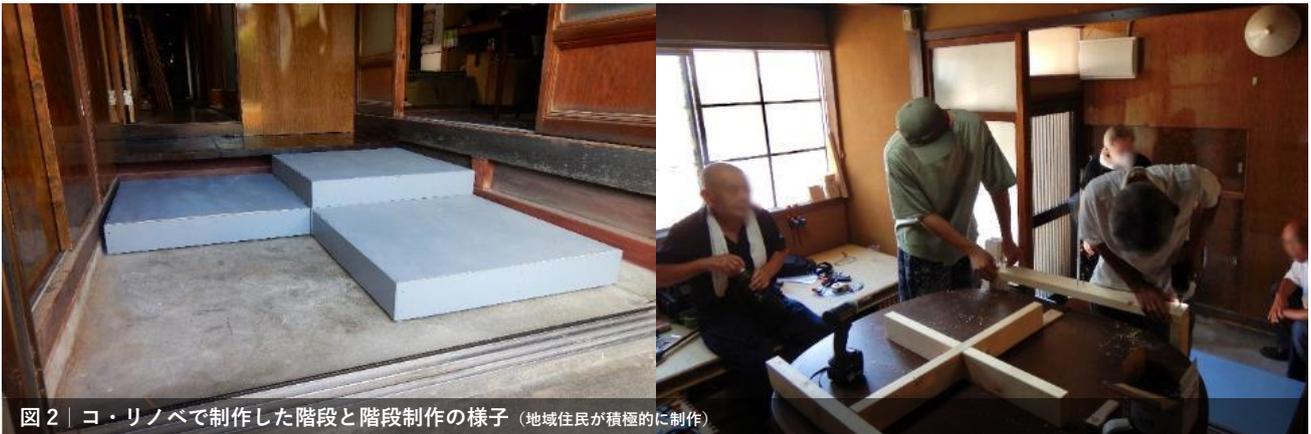


図2 | コ・リノベで制作した階段と階段制作の様子 (地域住民が積極的に制作)



図3 | コ・リノベで塗装した家具と家具塗装の様子 (地域の子どもも参加)



図4 | 内覧会の様子 (地域の年中行事に合わせて開催) と内覧会の様子 (店舗的な使い方を実演)